

Our BACKGROUND

スペシャルな素顔

JCの活動理念の根本にあるのは、地域社会のよりよい未来。
ゆえに家族代々LOMのメンバーであることは珍しくない。羽生JCの長澤允と長澤覚は実の兄弟、
允の息子の長澤亜斗夢は行田JCに在籍。二世代現役という貴重なメンバーを紹介する。

羽

生JC第44代理事長の長澤允(まこと)は実父が創業したマンション等各種施設の定期清掃や産業廃棄物の収集運搬業務を行う会社を経営。その父(故人)もJCのOBであり、現在ともに会社の経営に携わる実弟の長澤覚は現在、羽生JC地域活性委員会の副委員長を務め、允の長男、亜斗夢は昨年行田JCに入会と、JCの活動は家族代々受け継がれいくものになっている。允はJCとの出会いは人生の転機だったと振り返る。

家族に受け継がれる JCへの情熱と地域の未来



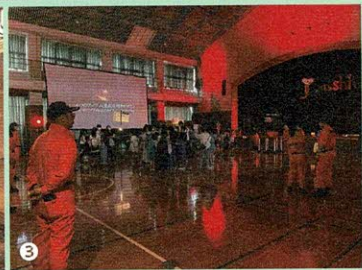
VOL.9
長澤允さん(羽生JC)
長澤覚さん(羽生JC)
長澤亜斗夢さん(行田JC)

長澤允(写真・左)2013年羽生JCに入会。2017年拡大研修委員会、2018年組織醸成委員会と2年連続で委員長を務める。2021年日本青年会議所に出向。2021年組織戦略会議副議長、2022年規則審査会議副議長。

長澤亜斗夢(写真・右)2003年埼玉県羽生市生まれ。父親の允が経営する会社で社会人3年目。2023年行田JCに入会。今年度は行田JC会員・組織拡大委員会委員、埼玉ブロック協議会に出向し、広報渉外委員会総括幹事。

「10年前、地元の消防団の先輩に誘われて例会に参加してみたところ、同じ世代の人たちが会社の理念や地域の未来について熱く議論を交わっていて衝撃でした。自分に足りないものがあり、この人たちと一緒に学びたいと思い飛び込みました」
会社の所在地が行田市であることから行田JCの選択肢もあったが、生まれ育った羽生市に恩返しをすべき、との父親の助言から羽生JCへの入会を決めたという。以来10年間JCの活動に「全力を尽くしてきた」

「允は今年、卒業を迎える。特に思い出されるのは、2018年組織醸成委員会の委員長を務め、一年間で6つの例会に取り組んだことだ。決して大所帯とはいえないLOMでスケジュール的にも厳しい数の事業をひとつも取りこぼすことなくやり切れた。しかも、その年は4人目の子どもができたのですが、2カ月半も早く出産となってしまう大きな病院じゃなければ対応できない状況で、LOMのメンバーみんながサポートしてくれた。メンバーなくして出来



家族一丸となってLOMを支える。
 写真・右／長澤允「今の会社は早く引退したいと思っているので、息子には早く引き継いでもらえる男になってほしいですね」。JCの活動にかなり時間を費やしたことから、これからは奥様と過ごす時間を大切にしたいという。
 写真・中／長澤亜斗夢「父と同様に仕事、家庭、JCすべて全力でいきます。今の年代でしかできないことで少し体力的にも余裕です。それには允から「でも、たまに寝坊してます」とツッコミが。
 写真・左／長澤寛 父親が創業した会社をともに経営するうえで「兄弟仲良く」を大切にしてきた。允がJCでどんな活動に取り組み、どんな人と付き合っているのかを目の当たりにし感銘を受け、2015年羽生JC入会。17年埼玉ブロック協議会アカデミー委員会委員、20年拡大ひとづくり委員会委員長、24年地域活性委員会副委員長。

- ① 2021年から日本青年会議所へ出向。22年の規則審査会議では厳格さを求められるコンプライアンスに向き合い、円滑に事業を推進するための環境づくりに取り組んだ。
- ② 18年、羽生JCが行った東京ディズニーランドでの研修事業。世界一の接客スキルはどのような社員教育で生まれるのかディズニーランドの講師から学んだ。
- ③④ 体感型脱出ゲームを取り入れた防災事業や夏祭りを通して地域のコミュニティ力向上に取り組んでいる。

たことは何ひとつなく、とても感謝していますし、JCの仲間意識の高さを実感しました」

すべてに全力を尽くす 情熱が次世代を動かす

その後、21、22年には日本青年会議所に副議長として出向。JCの活動に会社経営、そして家庭のこにも全力で取り組む父の姿は、息子である亜斗夢の人生の道も開く。「父がJCで活動する姿も見ていて、そこでお会いした人も全員すごい方々ばかり。こんな世界があるんだっていうのを知り、高校生の頃から20歳になったら入ろうと決めてました。これからの20年間で捧げるつもりで、一切手を抜かずやれるところまで全部本気でやっていきたい」

地域の課題解決に向け 新しいビジネスに意欲

父、そして叔父とは違うLOMに所属することを選んだのは甘えを断

つとの考えから。允がいろいろな経験を重ね、ステージを上げてほしいと願うそばで早速、今年には埼玉ブロック協議会へ出向。父子鷹はまさに飛び立つ時にある。

「JCを卒業したら地域の課題をビジネスとして解決したいと考えています。人口減少に歯止めをかける施策は行政も力を入れていますが、福祉サービスが手薄だと感じ、発達障害のあるお子さんなど児童支援の会社の立ち上げを計画しています」(允)
 「JCでは父が日本青年会議所でVCを務めたので、それを越えたい。仕事では飲食などいろいろなジャンルのビジネスを展開したいという野望があります。自分の生活する町でより多くの雇用を作りたいんです。現に仕事に困っている友達もいるのを知っているので、雇用の課題を解決したい」(亜斗夢)

血は水よりも濃し。人の情熱が行動を生み、行動が情熱を生む。背中を見て「こうなりたい」と思う人がいる。JC、そして家族は未来への財産だ。

LOM : HANYUSGYODA

行田JC

認証番号:0230

会員数:30名(2024年7月末時点)

<http://gyoda-jc.or.jp/>